

原著

福岡歯科大学6年生対象の臨床研修に関する診療科説明プレゼンテーション —概要および学生アンケート調査の報告と分析—

山田和彦¹⁾ 廣藤卓雄^{1,7)} 畠山純子^{1,7)}
森田浩光²⁾ 牧野路子^{2,7)} 松崎英津子^{3,7)}
大城希美子^{4,7)} 佐藤絢子⁵⁾ 谷口祐介⁵⁾
馬場篤子^{6,7)} 樋口勝規⁸⁾ 米田雅裕^{1,9)}

抄録：福岡歯科大学の臨床研修歯科医師は基本的に福岡歯科大学医科歯科総合病院の所属になる。実際の研修は5つのブロックに属する診療科において行っている。学生は学生時代の講義や臨床実習の経験をもとにブロックや診療科を選択していると思われる。しかし、本当に各ブロックや診療科の特徴を理解しているか疑問である。そこで、以前から行っている6年生対象の臨床研修説明会に加えて、今回初めて各診療科に学生向け説明プレゼンテーションを依頼した。

各診療科は3分間の持ち時間で研修内容や特徴を説明した。また、説明会終了後に学生アンケートを実施した。その結果、説明会の前から各診療科の特徴をよく理解している学生は多くないことが明らかになった。臨床研修への興味や国家試験勉強のモチベーションが向上した学生が多かった。また、臨床研修に関して学生が必要としている情報も把握することができた。多くの学生が次年度以降もこのような説明会を実施した方がいいと考えていた。

今後はアンケート調査の分析結果をもとに、説明会の改善を行い、学生に本学の臨床研修の内容を十分に提供できるよう努力していく予定である。

キーワード：歯科医師臨床研修 各診療科プレゼンテーション アンケート調査

緒言

歯科医師臨床研修は、歯科医師人生のスタートであり、どのような研修を行うかはその後の人生に大きく影響する。歯科医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令の施行について、「臨床研修は、歯科医師が、歯科医師としての人格をかん養し、将来専門とする分野にかかわらず、歯科医学および歯科医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応で

きるよう、基本的な診療能力を身に付けることのできるものでなければならない」と記載されている¹⁾。そして、各大学等の臨床研修施設はこの目標を達成できるようさまざまな臨床研修プログラムを作成している。福岡歯科大学医科歯科総合病院（以下本院）でも単独型と複合型のプログラムを設定し、臨床研修歯科医師（以下研修医）の指導を行っている²⁾。研修医は基本的に本院の所属になるが、実際の研修は表1に示す①から⑤の各ブロックに属する診療科において行うことになる。本院での研修を希望する学生は6年時の

¹⁾ 福岡歯科大学総合歯科学講座総合歯科学分野（主任：廣藤卓雄教授）

²⁾ 福岡歯科大学総合歯科学講座訪問歯科センター

³⁾ 福岡歯科大学口腔治療学講座歯科保存学分野

⁴⁾ 福岡歯科大学口腔治療学講座歯周病学分野

⁵⁾ 福岡歯科大学咬合修復学講座口腔インプラント学分野

⁶⁾ 福岡歯科大学成長発達歯科学講座成育小児歯科学分野

⁷⁾ 福岡歯科大学医科歯科総合病院歯科医師臨床研修プログラム責任者

⁸⁾ 福岡歯科大学医科歯科総合病院副院長

⁹⁾ 福岡歯科大学医科歯科総合病院歯科医師臨床研修プログラム責任者

¹⁾ Section of General Dentistry, Department of General Dentistry, Fukuoka Dental College (Chief: Prof. Takao Hirofuji) 2-15-1 Tamura, Sawara-ku, Fukuoka-shi, Fukuoka 814-0193, Japan.

²⁾ The Center for Visiting Dental Service, Department of General Dentistry, Fukuoka Dental College

³⁾ Section of Operative Dentistry and Endodontology, Department of Odontology, Fukuoka Dental College

⁴⁾ Section of Periodontology, Department of Odontology, Fukuoka Dental College

⁵⁾ Section of Oral Implantology, Department of Oral Rehabilitation, Fukuoka Dental College

⁶⁾ Section of Pediatric Dentistry, Department of Growth and Development, Fukuoka Dental College

⁷⁾ Assistant Manager of Post-graduate Dental Training Program, Fukuoka Dental College Medical and Dental Hospital

⁸⁾ Assistant Director, Fukuoka Dental College Medical and Dental Hospital

⁹⁾ Chief Manager of Post-graduate Dental Training Program, Fukuoka Dental College Medical and Dental Hospital

8月に行われるマッチング試験を受け、本院にマッチングした学生は11月に希望するブロックおよび診療科を選択することができる。そして、一部のブロックに希望が集中した場合は、第2希望も考慮して本院の臨床研修委員会において決定される。学生は学生時代の講義や臨床実習の経験をもとにブロックや診療科を選択していると思われるが、本当に各ブロックや診療科の特徴を理解しているか疑問である。

そこで本学では、以前から行っている6年生対象の臨床研修説明会に加えて、今回初めて各診療科に学生向け説明プレゼンテーションを依頼した。本論文では、診療科プレゼンテーションの概要および当日実施したアンケート結果の報告と、診療科プレゼンテーションの有用性について検討した。

対象および方法

1. 説明会および各診療科プレゼンテーションの概要

6年生対象の2020年度臨床研修説明会を2019年6月14日の5限目終了後に行った(図1)。まず、例年通り、臨床研修全体の説明、複合型・単独型プログラムの説明を行った。その後、各診療科3分間の持ち時間で自由な形式でプレゼンテーションを行った。今回、本院の各診療科に加え、サテライト病院である口腔医療センターのプレゼンテーションも行われた。すべてのプレゼンテーション終了後、例年通りマッチン

グシステムの説明を行った。

2. 学生に対するアンケート調査

説明会終了後に、参加学生にアンケート用紙(図2)を配布し、回答を依頼した。回収された回答のうち、公表することに同意が得られ、記載漏れの無いものについて集計・分析を行った。

3. 倫理的配慮

本研究の実施に関しては学校法人福岡学園倫理審査委員会の承認を得た(承認番号:第494号)。

結 果

1. 各科プレゼンテーションの概要

発表形式は口頭での説明が2科、パワーポイントを用いた説明が11科、動画を用いたプレゼンテーションが1科であった。プレゼンテーションの内容は診療内容、研究テーマ、医局での生活、認定医・専門医取得状況などがあり、診療科独自のセミナーや特別な診療設備の説明を行う科もあった。また、女性の多い診療科では女性歯科医師の生涯のキャリアについての説明も行われた。各科のプレゼンテーション時間は概ね、指定の3分以内であったが、一部時間をオーバーした科もあった。

2. 学生アンケートの結果

1) 回答数および回答率

参加学生93名のうち64名から回答が得られ(回収率68.8%)、有効回答数は64であった(有効回答率68.8%)。

2) 診療科の特徴について

まず、以前から各診療科の特徴を知っていたかどうか質問した(図3A)。50.9%の学生が以前から各診療科の特徴を「少し知っていた」と回答したが、「よく知っていた」学生の割合は12.7%であった。一方、「あまり知らなかった」「まったく知らなかった」学生

表1 研修ブロックと診療科の構成

ブロック	診療科
①	総合歯科・高齢者歯科・訪問歯科センター
②	保存(むし歯)科・歯周病科
③	補綴(入れ歯)科・口腔インプラント科
④	口腔外科・放射線診断科・麻酔科/歯科
⑤	小児歯科・障害者歯科・矯正歯科

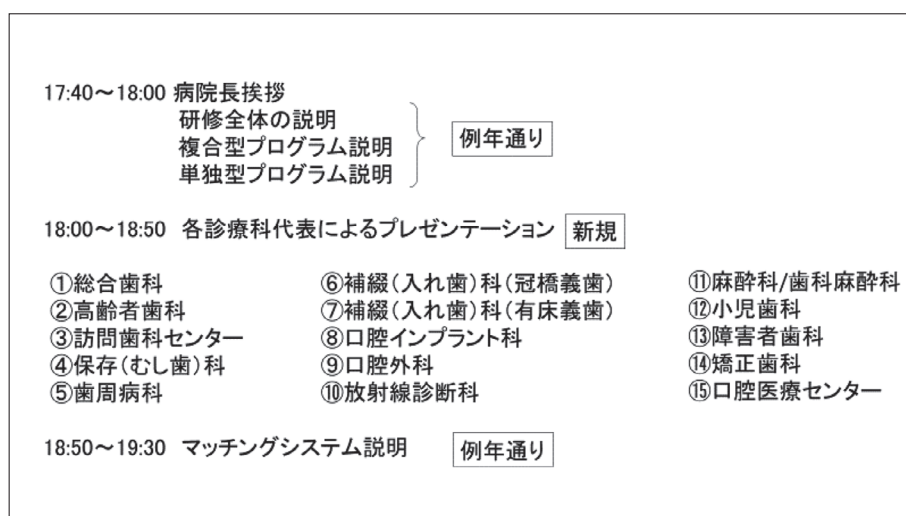


図1 臨床研修説明会と各診療科プレゼンテーションの概要

臨床研修説明会お疲れ様でした。 診療科（十口腔医療センター）プレゼンテーションは今回初めて実施しました。 今後の改善のためアンケートにご協力ください。（無記名で結構です。） 1. 以前から各診療科（十口腔医療センター）の特徴を知っていましたか？ ☐ よく知っていた ☐ 少し知っていた ☐ どちらとも言えない ☐ あまり知らなかった ☐ まったく知らなかった 2. 今回の説明会で各診療科（十口腔医療センター）の特徴がわかりましたか？ ☐ とてもわかった ☐ 少しわかった ☐ どちらとも言えない ☐ あまりわからなかった ☐ まったくわからなかった 3. 来年からの臨床研修に興味がわきましたか？ ☐ とてもわいた ☐ 少しわいた ☐ どちらとも言えない ☐ あまりわからなかった ☐ まったくわからなかった 4. 国家試験勉強のモチベーションが上がりましたか？ ☐ とても上がった ☐ 少し上がった ☐ どちらとも言えない ☐ あまり上がらなかった ☐ まったく上がらなかった 裏もあります	5. 各診療科（十口腔医療センター）のプレゼンテーションの時間はいかがでしたか？ ☐ とても短かった ☐ 少し短かった ☐ ちょうど良かった ☐ 少し長かった ☐ とても長かった 6. どのような情報がほしいですか？あてはまるもの、いくつでも○をつけてください。 ☐ 診療領域 ☐ 研修内容 ☐ 医局の雰囲気 ☐ 研究内容 ☐ 認定医・専門医の取得 ☐ 研修修了後の進路 ☐ 医局の OB 情報 ☐ 医局旅行やレクリエーション情報 ☐ その他_____ 7. 診療科（十口腔医療センター）のプレゼンテーションを次年度も続けた方がいいと思いますか？ ☐ とてもそう思う ☐ 少し思う ☐ どちらとも言えない ☐ あまり思わない ☐ まったく思わない 8. その他、感想や希望を書いてください。 ご協力ありがとうございました。質問は以上です。 アンケート結果は今後の改善のため、無記名の状態で集計して発表することがあります。 集計・発表に同意されますか。 ☐ 同意する ☐ 同意しない
--	---

図 2 学生アンケートの質問内容

の合計は 23.7%であった。次に、今回の説明会で各診療科の特徴がわかったかどうか質問した（図 3B）ところ、「とてもわかった」「少しわかった」学生の割合の合計は 87.3%であった。

3) 臨床研修への興味および国家試験勉強のモチベーション向上について

来年からの臨床研修への興味がわいたかについて質問したところ、92.7%の学生が「とてもわいた」「少しわいた」と回答した（図 4A）。国家試験勉強のモチベーションについて質問したところ、「とても上がった」「少し上がった」と回答した学生の割合は合計で 89.1%であった（図 4B）。

4) その他の情報について

プレゼンテーションの時間に関して半数以上が「ちょうど良かった」と回答した一方、「とても短かった」、「少し短かった」が合わせて 20%、「とても長かった」、「少し長かった」という意見が 27.3%であった（図 5A）。説明会で学生が必要としている情報は「研修内容」、「研修後の進路」、「医局の雰囲気」、「認定医・専門医の取得」などであった（図 5B）。次年度も同様のプレゼンテーションを続けた方がいいと思うか、という質問に対して「とてもそう思う」が 70.9%

で、「少し思う」を合わせると 94.5%になった（図 5C）。自由記載の回答では好意的なコメントのほか、説明会の時期、内容などに関して建設的な意見も得られた。一方、プレゼンテーションのやり方に否定的な意見も 1 名から得られた（図 6）。

考 察

歯科医師人生において最初の 1 年間は大きな意味があり、歯科医師法第 16 条の 3 においても「臨床研修を受けている歯科医師は、臨床研修に専念し、その資質の向上を図るように努めなければならない」とその重要性を述べている³⁾。臨床研修期間中に診療形態だけでなく、診療に対する考え方、患者とのコミュニケーションなど、初めに学んだ内容が将来の歯科医師としてのスタイルに影響すると考えられる。また、研修環境の違いにより、研修歯科医が得る学びの内容も大きく異なってくることが報告されている⁴⁾。このように重要な意味を持つ臨床研修であり、本学の学生はできるだけ多くの情報を得て、十分に検討して研修を行う診療科を選ぶことが求められている。しかし、現在の学生が得ている情報は講義を行う教員や臨床実習中の指導医からの限られたものである可能性がある。

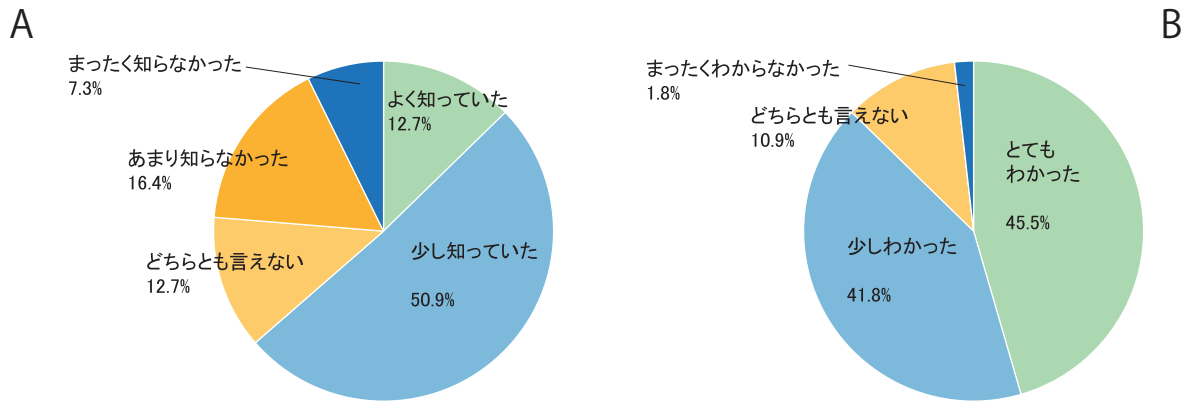


図 3

A：質問「以前から各診療科（+口腔医療センター）の特徴を知っていましたか？」の回答

B：質問「今回の説明会で各診療科（+口腔医療センター）の特徴がわかりましたか？」の回答

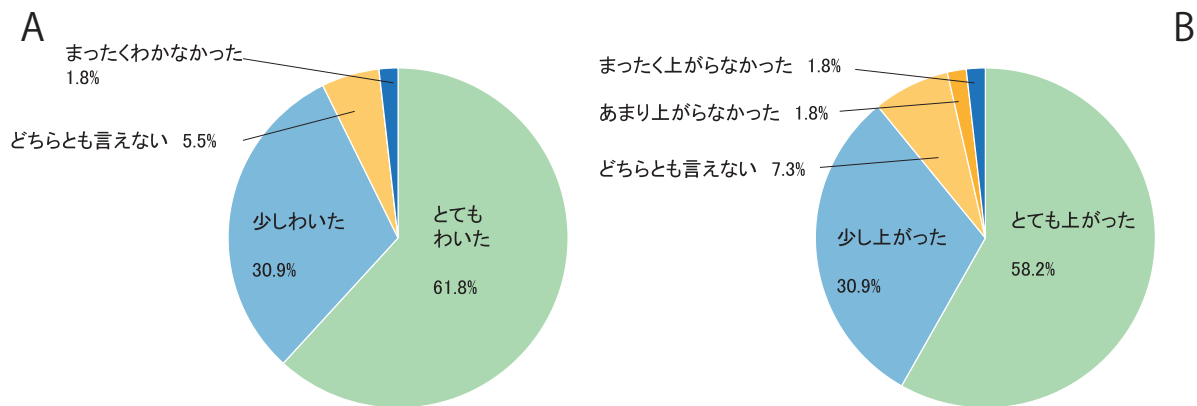


図 4

A：質問「来年からの臨床研修に興味がありましたか？」の回答

B：質問「国家試験勉強のモチベーションが上がりましたか？」の回答

クラブ活動等で先輩とのコミュニケーションがある学生は医局の雰囲気を少し知っている可能性があるが、実際の診療内容や研究テーマを本当に理解しているか不明である。

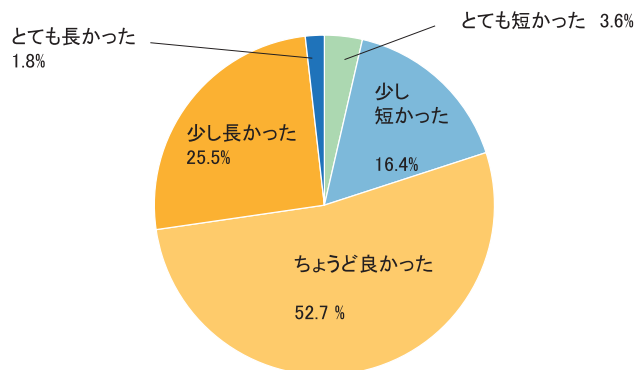
そこで、今回われわれは6年生を対象とした各診療科紹介プレゼンテーションを企画した。また、今後の説明会の改善に役立てるため学生に無記名のアンケート回答を依頼した。

診療科によるプレゼンテーションは新年度が始まって企画したため準備期間は短かったが、各診療科の代表は診療内容、医局の雰囲気、研究テーマなど趣向をこらしたプレゼンテーションを行った。学生アンケートの結果、各診療科の特徴を十分理解していた学生は多くないことが明らかになった。学生は講義や実習で各診療科の指導医と接触する機会はあるが、研修内容や医局の雰囲気を知る機会はありません。今回説明会を実施した意義があったと考えられる。各診療科が興

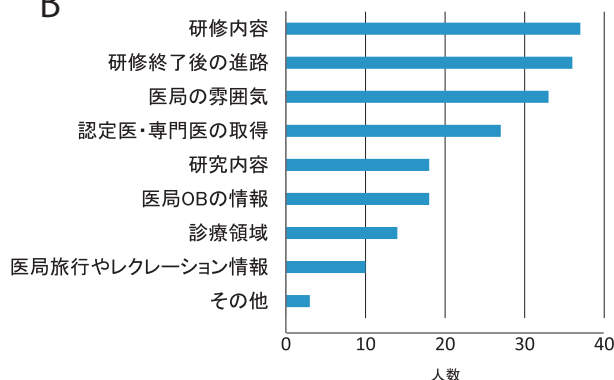
味深い研修内容を説明したため、翌年の臨床研修に関心を持つ学生が多かった。また、今回のプレゼンテーションを聞いたあとに国家試験に対するモチベーションが向上したと回答した学生が多かった。臨床研修と国家試験勉強は直接の関係はないが、近い将来の自分の姿がイメージでき、早く国家試験に合格したいという気持ちが強くなったものと思われる。

翌年以降の説明会の参考にするための質問もいくつか行った。プレゼンテーションの所要時間については、半分以上が適正と回答していたが、短かったと長かったという意見が拮抗しており、学生による受け止め方が異なっていることが明らかになった。興味のある診療科のプレゼンテーションはもっと詳しく聞きたかったと思う一方、すでに進路を決めている学生にとっては長く感じられたかもしれない。この点は今後の検討課題である。学生が臨床研修に関して必要と考える情報も今回のアンケートで明らかになった。必要

A



B



C

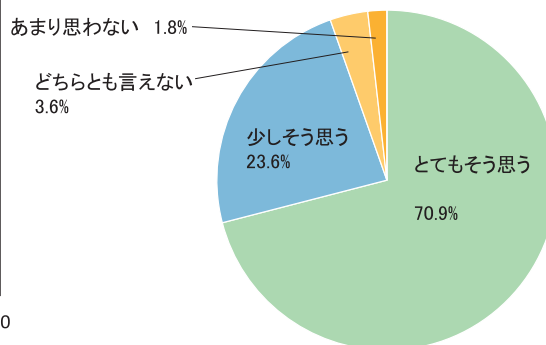


図 5

A：質問「各診療科（+口腔医療センター）のプレゼンテーションの時間はいかがでしたか？」の回答

B：質問「説明会ではどのような情報がほしいですか？あてはまるもの、いくつでも○をつけてください」の回答（複数回答）

C：質問「診療科（+口腔医療センター）のプレゼンテーションを次年度も続けた方がいいと思いますか？」の回答

とされる内容は今回のプレゼンテーションでおおむね紹介されていたが、認定医・専門医の取得に関する情報がほしいという学生が予想以上に多く、学生は研修終了後の資格取得も考えていることがわかった。また、研究内容に興味を持つ学生も一定数存在しており、大学院進学も視野に入れていることが考えられる。今回は時間の関係で研究内容を詳細に紹介する診療科は少なかったが、今後は研究内容についての紹介も必要であると考えられる。さらに多くの学生がこのようなプレゼンテーションを次年度以降も続けるべきだと考えていることが明らかになった。今回、初めてプレゼンテーションを企画し、次年度以降の実施については未定であるが、今後も継続できるよう各方面に働きかける予定である。一方、1名ではあるが興味のない科の説明は聞きたくないという意見もあった。診療科や研修先をすでに決めている学生にとっては退屈だった可能性もあり、今後は説明会のやり方を検討する必要があると思われる。

- ・楽しかった。
- ・動画のプレゼンが良かった。
- ・もっと早く(5年生時代に)聞きたかった。
- ・研修医の1日の生活を実際の研修医から聞きたい。
- ・各科のマッチング状況が知りたい。
- ・興味のない科のプレゼンは聞きたくない。

図 6 「その他、感想や希望を書いてください。」の回答例

研修歯科医のモチベーションには「人間関係」、「治療」、「研修生活」、「日常生活」などの環境的要因が影響することが知られている⁵⁾。また、「存在欲求」、「人間関係の欲求」、「成長欲求」などが満たされない場合は職場に対する不安や不満が生じ、早期退職につながる可能性もあると言われている⁶⁾。本学の臨床研修は1年間であり、このようなミスマッチによる退職

の例はないが、自分の希望やイメージと異なっていると研修歯科医のモチベーションが低下する恐れがあり、注意が必要である。1回の説明会で研修内容や指導方針がすべて明らかになるとは考えにくい、少しでも医局の雰囲気や研修概要が把握できれば、研修先決定後のミスマッチが減り研修歯科医のモチベーションが持続すると考えられる。

医学生が研修病院を選択する基準について調査した論文がある⁷⁾。その論文では、プライマリケア・技術の習得、研修終了後の進路に縛りがなく、研修医の活気と指導医の熱意、出身地に近いことが大きな要因だったと報告されている。今回の説明会では多くの診療科が研修内容について説明していた。一部の診療科は研修医の生活や指導医のコメントを紹介していたが、学生にこのような現場の雰囲気を伝えることも有効と思われる。

本院では臨床研修終了時に研修セミナーでの発表を義務付けているが、明確な目標をもって研修に取り組む者はセミナー発表などにも積極的に取り組む傾向があることが報告されている⁸⁾。発表テーマは研修開始後に指導医と話し合っ決定されるが、明確な目標をもって研修先を決定した方がその後の臨床研修に積極的に取り組む可能性が高い。また、臨床研修中に「努力した」と自己評価した研修医の方が、臨床研修終了時のスキル獲得が高いことも報告されている⁹⁾。今回の取り組みで、学生がはっきりした目標をもって研修先を決めることにより、「努力した」と自己評価する研修医が増加し、本院の臨床研修全体が活性化すると期待される。

臨床研修終了後は臨床への道へ進む者が多いが、一定数は大学院に進学して研究を志すと思われる¹⁰⁾。一部の大学のように各診療科に足場を置いて臨床研修を行う大学の場合、その診療科の研究テーマを継続する傾向があることが報告されている¹¹⁾。本学も病院に所属しながら特定の診療科で主に研修するシステムなので、所属する診療科の研究に興味を持ち、そのまま研究を継続する可能性がある。アンケート結果からも数名が各診療科の研究内容に興味を示していることが明らかになった。研修終了後に大学院に進学する者が増えることにより大学全体の活性化が期待される。

アンケートの項目には入っていなかったが、女性歯科医師の研修後のキャリアについての説明も意義があったと思われる。近年、女性歯科医師が増加しているが、仕事と育児の両立に対する不安をもつ女性研修歯科医が多いことが知られている¹²⁾。また、女性歯科医師はワークライフバランスを重視しているが、その内容は結婚、子供、就労状況などで変化することが考えられる¹³⁾。今後は女性歯科医師の不安や疑問に向き合うプレゼンテーションも検討する必要があると考える。

今回のプレゼンテーションは、初めての試みでいくつかの課題も明らかになったが、改善することにより臨床研修だけでなく、大学全体に良い影響がおよぼす期待される。今回のアンケート結果をもとに歯科医師臨床研修副プログラム責任者会で検討し、さらに充実した説明会を実施する予定である。

結 論

本院の臨床研修を学生に理解させるために、各診療科によるプレゼンテーションを実施した。学生に対するアンケート調査により以下の知見が得られた。

1. 説明会前から各診療科の特徴をよく理解している学生は多くないことが明らかになり、今回のプレゼンテーションは学生にとって有意義であったと考えられる。
2. 説明会実施により、臨床研修への興味や国家試験勉強のモチベーションが向上し、卒前教育についての成果があることが分かった。
3. 説明会を行う際に学生が必要としている情報が明らかになった。
4. プレゼンテーションの時間に関してはちょうどいいと考える学生が半数以上であった。
5. 多くの学生が次年度も各診療科プレゼンテーションを実施すべきだと考えていた。
6. 説明会全体の時間が予定よりも長くなったことが反省点である。今後は、時間配分など、改善が必要と思われる。

本論文の作成にあたり、利益相反事項はありません。

謝 辞

今回の臨床研修説明会実施にあたり、ご指導いただいた福岡歯科大学医科歯科総合病院阿南 壽病院長に深謝いたします。また、説明会運営およびプレゼンテーションにご協力いただいた関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

文 献

- 1) 歯科医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令の施行について、医政発第0628012号、平成17年6月28日。
- 2) 福岡歯科大学医科歯科総合病院 歯科医師臨床研修プログラム <https://www.fdcnet.ac.jp/hos/training/> (最終アクセス日 2020. 6. 18)。
- 3) 歯科医師法第3章の2 昭和23年 法律第202号。
- 4) 大戸敬之. 研修環境の違いによる研修歯科医の学びの解明 ―省察の観点からの質的アプローチ―. 日本総合歯科学会雑誌 2015; 7: 30-35.
- 5) 大戸敬之, 中山 歩, 岩下洋一朗, 松本祐子, 吉田礼子, 他. 研修歯科医の臨床研修に対するモチベーションを変化させる要因. 日本総合歯科学会雑誌 2016; 8: 15-19.
- 6) 板家 朗, 鬼塚千絵, 永松 浩, 木尾哲朗. 短期間での

- 歯科診療所退職の理由に関する質的分析. 日本総合歯科学会雑誌 2016 ; 8 : 9-14.
- 7) 福田吉治, 原田唯成, 星野 晋. 医学生・研修医の研修病院選択理由等に関するフォーカスグループインタビュー. 山口医学 2009 ; 58 : 247-253.
- 8) 坂巻研治, 富川和哉, 津田緩子, 樋口勝規. 研修歯科医のセミナー企画・発表に関する意識調査. 日本総合歯科学会雑誌 2015 ; 7 : 26-29.
- 9) 藤原 周, 岩堀正俊, 横山貴紀, 岡 俊男, 吉田隆一, 他. 臨床研修医における客観的臨床能力試験について —研修前期における OSCE の成績評価法—. 日本歯科医学教育学会雑誌 2004 ; 20 : 75-84.
- 10) 板家 朗, 鬼塚千絵, 永松 浩, 喜多慎太郎, 西野宇信, 他. 研修歯科医から大学院生に立場が変わったことで生じた態度に関する認識の変化. 日本総合歯科学会雑誌 2015 ; 7 : 102-105.
- 11) 飯田俊二, 田中佐織, 高師則行, 井上 哲. 歯科医師臨床研修必修化後の北海道大学病院における歯科研修医の動向について. 日本総合歯科学会雑誌 2018 ; 10 : 33-37.
- 12) 河越邦子, 関 啓介, 竹内義真, 古地美佳, 升谷滋行, 他. 日本大学歯学部付属歯科病院における女性研修歯科医のキャリア形成に関する意識調査. 日本歯科医学教育学会雑誌 2016 ; 32 : 173-183.
- 13) 塩津範子, 桑山香織, 河野隆幸, 武田宏明, 鈴木康司, 他. 女性歯科医師の考える理想の歯科医師像 —岡山大学病院歯科医師臨床研修を修了した女性歯科医師へのアンケート調査の分析—. 日本総合歯科学会雑誌 2017 ; 9 : 28-35.

著者への連絡先

米田 雅裕
〒814-0193 福岡県福岡市早良区田村 2-15-1
福岡歯科大学総合歯科学講座 総合歯科学分野
TEL 092-801-0411 (内線 125) FAX 092-801-4909
E-mail : yoneda@college.fdcnet.ac.jp

Presentation for the 6th grade students of Fukuoka Dental College by clinical
departments of dental hospital
—Overview and the analysis of questionnaire survey—

Kazuhiko Yamada¹⁾, Takao Hirofuji^{1, 7)}, Junko Hatakeyama^{1, 7)}
Hiromitsu Morita²⁾, Michiko Makino^{2, 7)}, Etsuko Matsuzaki^{3, 7)}
Kimiko Ohgi^{4, 7)}, Ayako Sato⁵⁾, Yusuke Taniguchi⁵⁾
Atsuko Baba^{6, 7)}, Yoshinori Higuchi⁸⁾ and Masahiro Yoneda^{1, 9)}

¹⁾Section of General Dentistry, Department of General Dentistry, Fukuoka Dental College

²⁾The Center for Visiting Dental Service, Department of General Dentistry, Fukuoka Dental College

³⁾Section of Operative Dentistry and Endodontology, Department of Odontology, Fukuoka Dental College

⁴⁾Section of Periodontology, Department of Odontology, Fukuoka Dental College

⁵⁾Section of Oral Implantology, Department of Oral Rehabilitation, Fukuoka Dental College

⁶⁾Section of Pediatric Dentistry, Department of Growth and Development, Fukuoka Dental College

⁷⁾Assistant Manager of Post-graduate Dental Training Program, Fukuoka Dental College Medical and Dental Hospital

⁸⁾Assistant Director, Fukuoka Dental College Medical and Dental Hospital

⁹⁾Chief Manager of Post-graduate Dental Training Program, Fukuoka Dental College Medical and Dental Hospital

Abstract : Dental trainees at the Fukuoka Dental College basically belong to the Fukuoka Dental College Medical and Dental Hospital, but they perform their clinical training in five clinical groups, which cover the clinical departments. The students can choose their clinical department to match the knowledge they acquired in the lectures and clinical training during their student days, but whether they really understand the characteristics of their chosen block or clinical department is questionable.

Therefore, we asked each clinical department to give a presentation to sixth grade students in addition to the regular guidance for the postgraduate dental training program. Representatives from each clinical department described the characteristics of their clinical training in a three-minute presentation. After the presentations were completed, we distributed a questionnaire to students.

The responses showed that many students did not have a detailed knowledge of their clinical department before the presentation. We found that the presentations increased students' interest in their clinical training and their motivation to study for the national examination. The questionnaire allowed us to determine what students need to know in choosing their clinical department, and students indicated that they want the presentations to continue next year, too.

We will analyze the results of the questionnaire and use them to improve the guidance given, and provide students with more detailed information on the postgraduate dental training program at our hospital.

Key words : post-graduate dental training program, presentation by clinical departments, questionnaire survey